

本邦鐵鋼事業の現況

世界的的鐵飢饉は我土木建築工事界に異常の影響を與へ、5月24日内務省から遂に全國地方長官に對して工事用鐵材の使用を出来る限り節約すべき旨の通牒が發せらるゝに至つた。これより先本誌は別項の如く如何にして此難局を突破すべきかに就て各家の意見を求め本誌を其對策號としたのであるが、茲に鐵鋼事業の現状を明らかならしむる爲、二三の統計を掲げて參考に供する次第である。

(1) 昭和11年度に於ける我國の鋼材需要高を調べると次の關係にある。

生産高	444萬噸
輸入高	30 "
供給計	474 "
輸出高	58 "
需要高	416 "

即ち國內需要高は約416萬噸であるが、參考の爲累年の増加率を示すと次の如くなる。

年次	需要高	増加率
昭和7年	222萬噸	(前年に比し)
8年	293 "	31%増
9年	332 "	13%増
10年	382 "	15%増
11年	416 "	8%増

(2) 次に之等の鋼材の産業別による需要高を調べると次表の如くなる。但し昭和10年度のものは商工省の發表で、11年度分は日本鋼管株式會社の調査に據つたものである。

4) 昭和10年度 延鋼材用途別販賣數量調

用途	販賣數量
鐵道(電鐵を含む)	255千噸
土木建築	846 "
造船	321 "
機械・鐵工業	1,090 "
石油・瓦斯・水道	81 "
鑛山	71 "
其他	482 "

合計 3,146 千噸

但し本表の販賣數量315萬噸は同年の鋼材需要總量382萬噸の約98%に相當する。

(ロ) 昭和11年度消費部門別鋼材需要推定量

用途	推定需要高
鐵道事業	270千噸
建築事業	950 "
鑛山事業	140 "
造船事業	160 "
金屬加工業	890 "
機械工業	970 "
其他	780 "
合計	4,160 "

即ち何れによるも土木建築事業が主要なる消費者の地位に在る事が窺れるであらう。

(3) 更に鋼の原料となるべき銑鐵、屑鐵、鐵鑛石の需要關係を見ると、昭和11年度に於て次の數字が見られる。(單位萬噸)

銑鐵 生産高	221	屑鐵 發生高	140
輸入高	98	輸入高	150
計	319	計	290

輸入先は銑鐵は滿洲及印度方面、屑鐵は米國、英領印度、濠洲、蘭領印度等である。

鑛石需要高は506萬噸、内生産高123萬噸で383萬噸は之を支那、馬來半島、濠洲、比律賓等から輸入してゐる。

4 次に鐵鋼に關する國際貸借關係を見ると、昭和11年度に於ける輸入金額(鑛石を除く一切)が1億9,204萬圓、同じく輸出金額は7,642萬圓で差引海外支拂額は1億1,562萬となつてゐるが、之に鑛石の輸入金額約4,000萬圓を加へると、海外に支拂つた金額は約1億5,000萬圓の巨額に達する。

以上で我國鐵鋼事業の現状が略知り得ると思ふが、更に257頁を参照せられたならば、世界に於ける我國鐵鋼業の地位も亦知り得るであらう。